

核融合炉・遮蔽定数ワーキンググループ会合議事録

1. 日 時 昭和 59 年 12 月 20 日 (木) 9:30 ~ 12:30
2. 場 所 東大原子力研究総合センター会議室
3. 出席者 中沢, 井口 (東大), 菊池, 長谷川 (原研), 大谷, 河北 (PNC), 川合 (NAIG), 松本 (三井造船), 南 (富士通), 角田 (代理, MRI)

4. 配布資料

- FS 84 - 1 前回議事録
- " " - 2 阪大 DDX データの現状 (井口)
- " " - 3 遮蔽定数 SWG 議事録 ($7/2 \sim 7/3$, $8/23$) (川合)
- " " - 4 " ($10/9$) (")
- " " - 5 " ($11/30$) (")
- " " - 6 ORNL 鉄ベンチマーク実験解析の再計算 (南)
- " " - 7 HANSEN EXP. 解析結果 (長谷川)

5. 議 事

(1) 前回議事録の確認等

資料 (FS - 84 - 1) により前回議事録が確認された。また, 現グループリーダー不在の間 (1985, $1/6 \sim 4/6$) は, 部会長 長谷川氏 (原研) に代行して頂くこととなった。

(2) DDX - Sub WG 経過報告等

資料 (FS - 84 - 2) を用いて DDX 実験データの現状につき報告された。又, 今後の活動としてこのような実験データの収集・管理を進めることとした。この件については, 興味をもっている他の WG にも相談していくこととした。

(3) 遮蔽定数 - Sub WG 経過報告等

資料 (FS - 84 - 3, 4, 5) により経過報告がなされた。又, 最新の成果について 資料 (FS - 84 - 6 及び 7) が南氏及び長谷川氏より報告された。

(4) 今後の作業予定

遮蔽定数 Sub WG としては当面、ORNL の鉄ベンチマーク実験及び HANSEN 実験データ解析について原子力学会発表を検討することとした。

又、今後は HANSEN 実験結果、原研 FNS、PNS 実験結果を主対象とし、モンテカルロ法等により解析していくこととなった。

なお、2 次 γ 線の積分ベンチマーク実験については今後も調査を継続していくこととなった。

(5) その他

Sensitivity 解析の導入の可能性について議論されたが、現在のところ方法論的に未確定ではないかとの意見が出された。